

ドローンによる除草剤散布受託作業



尾上グリーンセンターでは、6月中旬から下旬にかけて、ドローンによる除草剤散布の受託作業を行いました。

受託作業には生産者17人が申し込み、尾上地区の水田23^{ヘクタール}で除草剤を散布。JAの営農指導員が、ドローンを所有している生産者へ協力を要請し、実施しました。

同グリーンセンターの山口博之営農指導係長は「高齢化などで水田内に入り作業をすることが困難な生産者が増えている。地域水田農業を維持する取り組みとして、今後も継続していきたい」と話しました。



除草剤を散布するドローン

ミニトマト出荷説明会



6月18日、平賀園芸センターでミニトマトの出荷説明会を開き、生産者約100人が参加しました。

平賀園芸センターの職員が出荷規格や注意事項などを説明し、「カラーチャートで着色をしっかりと確認し、適期収穫に努めてほしい」と呼びかけました。

出荷説明会終了後には目揃え会を開き、参加者はサンプルのミニトマトで着色基準を確認しました。



ミニトマトの出荷基準を確認する生産者

青天の霹靂栽培講習会



7月3日、尾上地区と常盤地区で、青天の霹靂の現地講習会を開きました。

尾上地区の講習会には、生産者約30人が参加しました。中南地域県民局地域農林水産部の職員が講師を務め、今後の栽培管理などについて説明し、幼穂形成期に行う追肥と、その後の管理が重要なため徹底するよう呼びかけました。



今後の栽培管理を確認する生産者（左）

トマト出荷説明会



尾上トマト部会（山口知治部会長）は6月26日、尾上青果センターで令和6年産トマト出荷説明会と栽培講習会を開き、部会員約30人が参加しました。

出荷説明会では同青果センターの職員が出荷規格や注意事項を説明しました。出荷説明会終了後には目揃え会を開き、部会員はサンプルでトマトの出荷規格を確認しました。



トマトの出荷規格を説明する職員（右）